

平成27年11月12日

石川県知事 谷本 正憲 様

日本野鳥の会の会石川
代表 青山 輝久
森の都愛鳥会
会長 辻村 澄

「普正寺の森」の生態系破壊となる 犀川下流域の河川整備についての要望

日頃より、野鳥の保護についてご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、金沢市を流れる犀川下流域の河川整備（犀川最下流、普正寺橋～犀川橋間の左岸）が本格化すると伺い、この河川整備について要望いたします。

この計画によれば、普正寺橋と犀川橋間の左岸は大きく掘削されることになり、健民海浜公園野鳥の森、通称「普正寺の森」の一部と、ササゴイの池およびササゴイの池野鳥観察舎が失われます。

普正寺の森は、全国に知られた野鳥の生息地でもあり、掘削予定地のササゴイの池は、絶滅が心配されているチゴモズやアカモズが繁殖したこともある重要な野鳥生息地です。また、同地は平成2年には全国野鳥保護の集いが開催され、石川県が野鳥保護を宣誓した場所であり、野鳥を通じて多くの県民が自然に親しんでいます。

今回の河川整備では、貴重な野鳥の生息環境と、多くの県民が利用する観察場所を損なうことのないよう、強く主張いたします。

記

犀川下流の河川整備において、左岸を掘削し、多くの県民に利用され野鳥の重要生息地である普正寺の森、およびササゴイの池野鳥観察舎を破壊することに強く反対し、同計画の見直しを要望いたします。

<理由>

◎普正寺の森の重要性、計画地の自然環境

「普正寺の森」は、海岸と河川に挟まれた独特の地形を持ち、国内屈指の渡り鳥の重要な中継地となっている。これまでに約 290 種の野鳥が観察されており、これは石川県内で記録される野鳥の 60%をしめる高い比率である。また国や石川県指定の絶滅危惧種も多く記録され、貴重な種類の繁殖が確認されている。また越冬する種類も多く、山地にみられるアカゲラやアオゲラが見られる特異な場所でもある。

掘削予定の左岸の河畔林と中州はカモ類、クイナ類、カイツブリ類の生息、繁殖、休憩場所となる極めて重要な場所である。またササゴイの池とその周辺は湧水が点在し、水の少ない海岸林での渡り鳥たちの安全な水場の一つとなっている。池には清流のシンボリックな存在であるカワセミなどが飛来し、クイナ類、サギ類、カモ類が翼を休める貴重な湿地である。河川整備による湧水や湿地の消失は、この池に依存する野鳥をはじめとする生物に大きな影響を与えることになるだろう。

この周囲は全国的に絶滅が心配されるチゴモズ（環境省レッドリストⅠA類）、アカモズ（同ⅠB類）が繁殖したこともある重要な野鳥生息地である。ちなみに環境省レッドリストⅠA類はコウノトリ、ⅠB類はライチョウが掲載される重要度である。

◎野鳥観察地としての普正寺の森、ササゴイの池

日本野鳥の会石川は昭和 59 年（1984 年）以降約 30 年間、森の都愛鳥会も同じく約 30 年間それぞれ毎月探鳥会を普正寺の森で実施。野鳥を通じて県民の自然保護に対する普及啓蒙に努めている。これまでの探鳥会参加者は延べ約 2 万人を数え、石川県で最も大きな観察会となっている。

平成 2 年（1990 年）には全国野鳥保護の集いが開催され、常陸宮殿下のご臨席のもと、石川県が全国に野鳥保護を宣誓した場所でもある。いわば石川県の野鳥観察の聖地とも言える普正寺の森の中で、ササゴイの池野鳥観察舎は唯一の観察舎であり、ササゴイの池はシンボリックな観察場所である。

◎県行政の整合性はあるのか

犀川左岸拡幅計画は 15～16 年前にもあったが、左岸の日本有数の野鳥の宝庫である「普正寺の森」の生態系破壊になることから、右岸河畔林等の伐採掘り起こしを行い川を大幅拡張。これ以上、左岸の大幅拡張を行う計画は不必要だと判断され中止、今日に至っている。その際生態系に配慮し、一部河畔林を中州として残した。それにも関わらず、再び河畔拡幅計画を起こすことに整合性はないと思われる。この場所はもともと野鳥の会石川などの保護団体が働きかけ、それを受けて石川県環境部が昭和 62 年頃（1987 年頃）に整備したものである。県河川課と自然環境課（当時：自然保護課）の間で、保全の約束が交わされ、ササゴイの池や同観察舎が整備された。日本野鳥の会石川（当時：日本野鳥の会石川支部）もその旨の説明を受けて納得し、現在はササゴイの池と同観察舎を自然環境課より委託され管理しているものである。今回の河川整備計画は県行政の整合性を疑うものであり、世界や国内の生物多様性保全の流れに大きく逆行するものである。

◎別紙 1, 2 を添付します

<別紙 1> 普正寺の森・記録種の石川県での割合 <別紙 2> 普正寺の森・鳥類リストと説明

